



# 林 声



OKAYAMA

お か や ま

No.331 . 1997 . 1 . 1



## 美しい森づくりフェア



賀  
正

1997元旦

第二代 おかやま もりの妖精

### 目 次

新年のごあいさつ .....	2	地域の林業を支える人達 .....	6
美しい森づくりフェア &シンポジウムの開催 .....	3	開校「まにわ森林大学」 .....	7
最近の林業機械 .....	4	林研だより .....	8
樹 .....	5	お知らせ .....	9
		林産物市況等 .....	10

“ おかやまの 未来をひらく 農林漁業 ”

岡山県 農林漁業活力向上運動

# 新年のごあいさつ



岡山県林業改良普及協会

会長 高宮 明

新年おめでとうございます。

平成九年の輝かしい年を迎え、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本会の運営につきまして、格別のご協力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、景気は依然として低迷状態が続き、長い冬の時代からなかなか抜け出せずにあります。しかし、後半になって住宅着工戸数が増加し、加えて円安の進行、米材の品不足等により、木材価格は上昇しました。林業関係者にとっては一息ついたところであります。

一方、政治面では衆議院解散による総選挙、続いて岡山県知事選挙があり、戦後生まれの新しい知事が誕生しました。二十一世紀への橋渡しとなる重要な時期だけに、今後の県政並びに林政の発展に県民の大きな期待が寄せられています。

ところで、林業は依然として厳しい状況にあります、特に将来を担う後継者不足の問題は、私も普及に携わる者にとって非常に深刻です。平成七年度において本県の林業後継者は二百人を下回る数となっており、これまで築いてきた十七万<sup>弱</sup>に及ぶ人工林の維持・管理をどうしていくか、将来に不安を残しております。

昨年、「林業労働力の確保の促進に関する法律」が成立し、林業経営基盤の強化、林業労働

力の確保と林業事業体の育成等林業労働力の育成・確保を図る手だてが構築されました。国においても後継者の確保に積極的に取り組んでいただいておりますことは歓迎すべきことだといえます。しかしながら、林業・木材産業の抱える課題は、関係者のみで対応していくことに限界があるのも事実です。

最近、森林のさまざまなはたらきが見直され、森林を有しない都市部の人々の間にも森林への関心が高まっております。昨年来、県下各地で開催された「植樹のつどい」には、老若男女多数の人々が参加され、県民の手による森づくりが進められています。また、本県林研グループの中には、都市住民をホームステイに受け入れるなど山村側においても積極的な活動を行っているケースもみられます。

林業の振興を図るためには都市住民の理解・協力が不可欠です。私も森林・林業にかかわっております者といましては、こうした機運に乗じて都市部の人々に森林や林業の現状を理解してもらい、林業の振興についてご協力いただくよう努めてまいる必要があると思えます。既成の概念に捕らわれない新しい発想のもとに活動しなければならぬと存じます。

本年も皆様方にとって良い年になりますよう祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

# 「美しい森づくりフェア&シンポジウム」の開催

岡山県では、広く県民に森林の良さや大切さについて理解を深め、県下各地域の自然条件に適した多様な森づくりを県民参加で推進するため、平成五年度から「美しい森づくり運動」を展開しています。

この運動の一環として、平成五年度から平成七年度に県下三大流域の主要都市において「森林と木のつどい」を開催してきましたが、本年度は装いを新たに、岡山市において「美しい森づくりフェア&シンポジウム」を次のとおり開催しました。

一 主催 岡山県、各地域美しい森づくりの会

二 後援 岡山県森林組合連合会、(社)岡山県木材組合連合会、(社)岡山県治山林道協会、岡山営林署、津山営林署、大阪営林局森林技術センター、森林開発公団岡山支所、(社)岡山県林業公社、西日本旅客鉄道株式会社岡山支社

## 三 テーマ

「みんなでつくろつ美しい森」

「森と木と人との調和をめざして」

## 四 開催内容

美しい森づくりフェア

JR岡山駅コンコースで、十六日午前九時からの開会式を皮切りに、十七日までの二日間開催しました。



開会式・テープカット

会場には、「美しい森づくりコーナー」、「さまざまな森づくりコーナー」、「森の恵の展示・販売コーナー」を設け、森林の果たす役割、美しい森づくり運動や国内、国外におけるさまざま森づくりの活動をパネルや実物で紹介するとともに、県下の森の恵みの展示即売を行い、多くの県民に森林の良さや大切さ、美しい森づくり運動について、認

識を深めていただけたものと思います。



展示・即売コーナー

## 美しい森づくりシンポジウム

十六日午前、岡山国際交流センターの国際会議場において、哲学者の内山 節さんと九州芸術工科大学教授の重松敏則さんをお招きして開催しました。

まず、内山さんには「森林の文化・人の文化」と題して、重松さんには「美しい森づくりから未来が広がる」と題して講演をいただいた後、講師二名をパネラーに、山田農林部参与がコーディネーターとなり意見交換を行いました。

講演では、内山さんからは、森と人との文化を創造するためには、農山村の人々と都市の

人々との連携をとおして、森を守り育てながら暮らせるような農山村をつくりだしていくことが必要であると、重松さんからは、森林環境を保全するためには、農林業者・市民・行政が共にその重要性を認識し、手をたずさえて森づくりを進めることが重要であると訴えられました。

意見交換では、これからの森と人との関わり方や都市住民と農山村の方々との連携による森づくりについて熱心な討議が行われました。

この催しを通して、一人でも多くの方が森づくりに参加していただくことを願っています。

(林政課 美しい森林づくり推進班 山下 秀喜)



シンポジウム開催状況

# 最近の林業機械

『林業機械展』見聞録

平成八年十月十三日、十四日、栃木県矢板市で「林業機械展示会」が開催されました。

展示内容は、大型機械から小型機器まで多様な内容で、多くの人で賑わっていました。

大型機械として枝条粉碎機（一台数千円）の展示が数社ありました。従来小型機が主流であったものが、本年は実際に現地で使用できる規模能力を備えた機種となっており、企業の新たな需要拡大に対する意欲がうかがえました。

メイン展示は、やはり高性能林業機械群で、売れ筋であるタワーヤード、プロセッサ、フォワード等のタワーヤードシステムを構成する機種となっていました。

「タワーヤード」：トラック搭載の大型の中型の機種からクローラ式のベースマシンに搭載した中々小型の比較的集材距離の短い機種が増えていたように思われました。パワーシヨベルにウインチを搭載したスウィン

## 高性能林業機械を中心に

グヤーダ新機種として出展していた企業もありました。



スウイングヤード

「プロセッサ」：従来機種から大幅な設計変更がなされ、能力向上が図られた機種を開発した企業や間伐材用の軽量新型プロセッサが出展していました。

「ハーベスタ」：この機械は昨年と殆ど変わっていません。日本では伐採造材機として機能發揮できる場所が少なくもっぱらプロセッサ（造材機）として導入利用されている状況です。

他に小型で強力なエンジンを搭載した林業専用ベースマシンを開発出展していた企業もみられました。

出展された機械は、総じて新たな工夫や改良を施されたもの

が多数見られ、いずれも機能の向上はもちろん、操作性、メンテナンス性、耐久性等の向上が図られ、機械のバリエーションも広がり、我々としても地域に適した機械化を進める準備は整ってきたように感じました。

「フォワード」：導入実績の多かったホイール式に代わって、不整地走破性の高いゴムクローラ式の新型車輛の出展が多くなっていました。他社で製作され



フォワード

た機械を自社ブランドで販売する「OEM」製品が多いようにも思われました。

### 『間伐作業』

このような最近の林業の急速な機械化が進む中、機械化のメリットを最大限に生かすための森林作業システムがいろいろと考えられています。

タワーヤードシステムによる列状間伐もその一つです。

従来はもっぱら林内作業車と装備しているウインチとで木寄せ集材をしながら素材生産が行われていたが、高性能林業機械による作業システムでは列状間伐が最も効率的であると考えられています。

林業試験場では今回この列状間伐について定性間伐との比較試験を行いました。試験の目的は生産性と施業後の成育状況の追跡調査による効果測定です。

結果については今後お知らせすることと思いますが、タワーヤードシステムで行う作業と林内作業車で行う作業とで、こども肉体労働への負荷が違ふものかとつくづく痛感され、効率の違いにも改めて驚かされました。今後機械化作業が主流となれば列状間伐も一つの間伐方法として大きなウエイトを占めるようになると考えられます。これからの林業技術として現場で活用できる指針の確立を目指していきたいと考えております。

（林業試験場 林業専門技術員

玉木 正夫）



この頃、山に調査に行くと、あれほど美しくかった紅葉とかわり、木々は本格的な冬支度を見せてくれます。

林業試験場が長期の調査を行っている若杉原生林でも落葉樹はほとんど葉を落とし、林内は明るくなっていました。その林床にはツルシキミやハイヌガヤなど日頃は目立たない常緑樹がその存在を緑の葉で示しています。一方県

南部の社寺などではカシ類やシイ類が緑の色を残したまま、それでも冬らしい風情で茂っています。

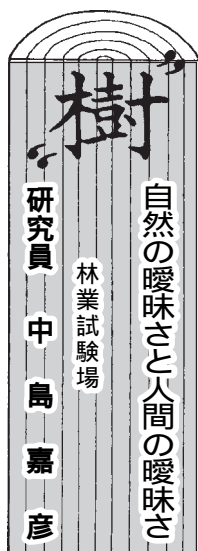
このような落葉樹と常緑樹の生態については今更言うまでもなく、長い年月の進化の過程で適応してきたものとされています。

一般に気候条件を主な要因として、県南部は常緑樹の「暖帯林」、県北部の中国山地は「温帯林」などと区別されています。しかし、県のどこかに明確な線が引けるものではなく、この両

者の入り交じった中間帯をさ

んで曖昧な区別ができるだけです。どんなに詳しくその土地の立地条件を調べてもその場所に「絶対に常緑樹が生えるはずだ」とは言い切れません。その場所の森林が人間によつてどのように扱われてきたなど複雑な要因が絡んでいるからです。

この、曖昧さが我々自然科学の研究をするものにとっては魅力



林業試験場

研究員 中島嘉彦

であり、また最も頭の痛い問題なのです。最近「フアジー理論」などのように曖昧なもの領域に踏み込んだものもありますが、このような曖昧な自然現象は「統計的な確立」によつて示すしか方法がないのです。つまり、県南部では県北部より常緑広葉樹林の出現頻度が高い」といふことは言えても「地図上のこの地点立地条件からは常緑広葉樹林

である」とは断言できないのです。

最近、岡山県でも高性能林業機械の導入利用が進んでおり、その活躍が各地で伝えられています。林業試験場では、これら高性能林業機械の現地調査や実証試験を行っています。これらを組み合わせ運用したときの総合的な能率についてはなかなか明確な指針を示すことができません。つまり、ある現場で、チェーンソー伐採は何人で何日、プロセッサ造材は何日という予測はできても、その現場の総合的な集材コストを正確に予測することは困難なのです。

その理由はこれらの各作業が互いに影響し合っており、それが地形要因などと複雑に絡んで実際の能率を左右しているからなのです。また、どのような条件なら高性能林業機械を導入すれば効果が上がるのか、どの程度コストダウンができるのかなどについても、それぞれの森林組合や会社などの置かれている条件、能力、導入する機械の機種などの要因が複雑にからん

で、前もって正確な予測を立てることは不可能なのです。

自然界の曖昧さにかこつけて、調査現場の未熟さの言い訳をしてしまったようです。でも人間には現状をかえようとする意志の力があります。積極的に取り組む意志のある人がいる事業体はみな着実な成果を上げていくことは間違いありません。

今後、このような人たちの役に立てるような成果が出せるように調査研究に努力したいと思っています。

## 地域の林業を支える人達

### 平成八年度功労者表彰受賞者の紹介

平成八年十一月六日、金光町で開かれた農林漁業活力向上推進大会において、長年農林漁業の振興に尽力された個人と団体の表彰が行われました。

そのうちの林業関係受賞者の概要について紹介します。

#### 一 農林漁業功労者表彰

##### 〈知事表彰〉

宗安 和彦（苫田郡鏡野町）

役職等

・岡山県林業改良普及協会林研部長

・岡山県森林審議会委員

・林研「明日檜会」会長

・岡山県普及指導協力員

功績内容

・昭和二十七年から林業に従事し、以後人工造林の推進、林内を利用したオウレン、ミツマタの栽培などに取組んだ。現在では大径材生産をめざし間伐・枝打ちを徹底するなど

優良材生産を自ら実行し地域の模範となっている。

・「明日檜会」会長、県普及協会林研部長、普及指導協力員などを務め、地元をはじめ町内外の森林所有者への技術普及、林業後継者の育成確保に尽力している。

##### 〈農林部長表彰〉

前田 忠志（新見市千屋）

役職等

・新見市新林業経営者クラブ会長（前）

・阿新地域美しい森づくりの会長

・岡山県普及指導協力員

功績内容

・昭和四十三年農林業に従事以来、優良材生産を目標に枝打ち・間伐の適期実施・路網の整備に取り組み、その施業内容・林分は地域の模範となっている。

・林研グループ活動や美しい森

づくり運動の推進に積極的に取り組むなど地域林業の発展に尽力している。

美甘 宣嘉（湯原町見明戸）

役職等

・湯原林業研究会会長（前）

・岡山県林業改良普及協会林研部会副会長（前）

・岡山県普及指導協力員

功績内容

・昭和三十六年農林業に従事以来、木材、しいたけ、米作、和牛を組み合わせた複合経営に取り組むなど地域のモデル的農林経営を行っている。

・湯原林研会長、県普及協会林研部会副会長、普及指導協力員などを務め、枝打ち・間伐等の技術指導、小学生を対象とした森林・林業教育の推進などに尽力している。

豆原 恒夫（久世町台金屋）

役職等

・真庭地区山林種苗組合副理事長

・岡山県山林種苗協同組合理事

功績内容

・昭和二十三年から種苗生産に

取り組み、以来優良苗木生産技術の研究・実践を行い、各種品評会で優秀な成績をおさめるなど卓越した技術を持っている。

・真庭地区山林種苗組合のリーダーとして生産者の指導、技術の普及に務め、造林用苗木の安定供給に尽力している。

#### 二 農林漁業近代化表彰

総社市森林組合（総社市中央）

功績内容

・松くい虫被害跡地対策としての総合的な人工造林の推進、除間伐の計画的・継続的実施など森林資源の造成と整備に尽力している。

・フォレスターの労務環境改善、事務の合理化、松くい虫防除などに積極的に取り組みなど地域林業振興に貢献している。

（林政課 林業専門技術員

柳谷 義博）

## 開校『まにわ森林大学』

平成七年十月七日、八日に勝山町で開催された「全国森林サミットinかつやま」で関心の高まった森林・林業への一層の理解と「美しい森づくり運動」の推進のため、真庭普及指導区の一般住民を対象に平成七年十一月から八年三月にかけて八回の森林・林業の講座を開催しました。平成八年四月から五月にかけてはさらに四回の専門講座(前期)を実施しました。そして、このたび平成九年一月から三月まで五回の専門講座(後期)を開始します。

## 一 目的

森林は木材生産の場としてまた、国土や環境の保全などすぐれた機能をもっており、人間の生活になくてはならないものである。そこで森林の働きをいろいろな方面から学習して、真庭地域の森林・林業への理解を深める。

## 二 主催

真庭地方振興局

## 三 組織

学長は、真庭地方振興局農

林事業部長とし、事務局は森林課(勝山林業改良指導員駐在所)に置く。

## 四 これまでに開催された講座

平成七年度(一般講座)

- ・ふるさとの森林に学ぶ
  - ・どんぐりころころ(どんぐりで森づくり)
  - ・松竹梅(盆栽づくり)
  - ・木と歌(ころ)
  - ・この木なんの木(木と顕微鏡の世界)
  - ・森林の鳥たち
  - ・樹のお医者さん
  - ・森林からの贈り物
- 平成八年度(専門講座 前期)
- ・地域資源を活かした地域起こし



- ・広葉樹植栽実習
- ・毛無山自然観察
- ・蒜山地方の自然と食文化

## 五 参加者

延べ 約四百五十名

## 六 講師

外部講師と林業改良普及指導員

この他に特別講座として「木と歌(ころ)」が、これまでに十一回開催され、勝山町文化祭でその成果が発表されるなど活発な活動を行っています。

今後、ユニークで肩の凝らない講座を開催して地域の人々に森林・林業への一層の理解を深めていただくとともに、コミュニケーションをたいせつにして、美しい森づくり等に参加していただく等地域の活性化推進に努めたいと思います。

(真庭普及指導区)

Ag 江見 喜光)

## 林研だより

阿新

## 大佐町椎茸生産組合



会長 中上 市男  
 会員数 一七名

## 原木林の造成から

## シイタケ栽培まで

近年、中国産シイタケの輸入と菌床栽培の増加などで原木によるシイタケ生産は大変厳しい状況で、生産量は年々減少しています。

こうした中であって、原木林の造成からシイタケ栽培までを一貫して行い、モデル的な生産を行い、品評会においても、常に優秀な成績を収めている大佐町椎茸生産組合を紹介します。

当生産組合はシイタケ生産の合理化と生産力の増強及び収入の増大を図ることを目的に昭和三九年に設立されました。

当初は施設整備と技術の修得が主な組合活動であったようですが、時代の流れとともに銘柄化や原木の確保などといった多義にわたる取り組みが要求されるようになってきて、最近では

会長を中心に会員が一丸となって、次のような組合活動を展開しているところです。

まず、第一にシイタケ原木が年々減少しており、安定的な原木確保を図るため、原木林造成を進めています。次に生産コストの低減と労務を平準化させ一年を通じ安定した収入を得るため、生・乾シイタケのバランスの良い生産体系を確立・定着させています。また、最新の生産技術の修得を図るため、研修会、先進地視察などを行い、生産したシイタケを品評会に積極的に出品して大佐町産シイタケ



の銘柄化の浸透を図っています。

これからの主な活動としては、品質・味が自他ともに認められる原木シイタケ栽培の省力化を推進して、収益性の向上と販路を拡充し、儲かるシイタケ栽培を行い、次世代を担う後継者ができるよう、これまで以上に組合活動を活発に展開して、消費者ニーズに応え、安価で栄養豊富な「美味しい大佐町産原木シイタケ」を一人でも多くの方に食べていただけるよう頑張っていきたいと話されています。

最後に、失敗談として「植えただけのクヌギ造林木の大半を猿に引き抜かれてしまったことなど」の苦い経験や会員・家族の協力がなければ一人では何もできないといった周囲を気遣う人柄にふれるとともに、原木シイタケ生産にかける熱意と貴重なお話を伺うことができました。

今後のご活躍と当生産組合の発展を期待いたします。

(阿新普及指導区 Ag 岡田政人)



玉野市消防シンポジウム

これから春先にかけて乾燥した日が続き、林野火災が起こりやすくなっています。

このため、林野火災が森林や社会生活に与える影響や予防の方法・消火活動の問題について考え、防火意識の高揚を図るための「山火事予防シンポジウム」を、平成九年二月二十六日午後一時から岡山市内の県総合文化センターで開催します。入場は無料です。

当日は、消防庁消防研究所の山下邦博氏による「山火事の防ぎ方」についての基調講演と岡山大学農学部長の千葉喬三教授をコーディネーターに「山火事予防について」のパネルディスカッションを行います。多数の方々の参加をお願いいたします。  
(治山課造林係 松本英和)

お知らせ

玉野市では昨年、一昨年と大規模な山火事に見舞われました

玉野市では昨年、一昨年と大規模な山火事に見舞われました。これを契機に同市では山火事防止を念頭に入れたタバコの投げ捨て等を禁止する「玉野市ポイ捨て防止に関する条例」を制定するなど山火事防止に積極的に取り組んでいます。

その一つに従来からある山火事予防看板に改良を加え、電光掲示により「山火事防止」、「タバコポイ捨て禁止」などの啓発標語が流れる山火事予防表示灯を同市長尾地内の県道交差点に設置しました。



この表示灯は空気が乾燥すると自動的に上部にある赤い回転灯が回転し警戒を促す仕組みになっています。

(岡山普及指導区 Ag 山本勝範)

みどり会(会長 山野清弘)

みどり会(会長 山野清弘)は昭和三十五年に苫田郡奥津町に結成された林業研究グループです。結成以来三十年以上を経た現在も会員は生涯現役を目指し活躍しており、この活動が評価され「第一回(平成八年度)農山漁村高齢者対策優良活動地域表彰」において全国森林組合連合会会長賞を受賞しました。また、三光荘で行われた「農産漁村いきいき高齢者のつどい」では、山野会長がパネリストとしてグループの活動や苦労話を紹介し、農業・漁業関係グループとの交流を深めました。

(苫津普及指導区 Ag 板坂忠義)



中央が山野会長

# 林産物市況

## 製材 (12月上旬)

杉正角 3m			桧正角 3m			桧長柱 6m		
寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)
6.0	一等	28 - 30	6.0	一等	50 - 55	10.5	特等	140 - 150
7.5	一等	22 - 25	7.5	一等	40 - 42	12.0	特等	170 - 180
9.0	上一	22 - 25	9.0	上一	30 - 32	"	上小	200 - 220
"	一等	25 - 27	"	一等	40 - 42	13.5	特等	140 - 150
10.5	一等	50 - 55	10.5	一等	100 - 110	"	上小	160 - 180
"	特等	60 - 65	"	特等	115 - 120	ラ ス 板		
"	上小	70 - 80	"	上小	180 - 200	2 <sup>m</sup> 1.2×	9.0	35 - 38
"	無節	80 - 90	"	無節	220 - 250	3 <sup>m</sup> 1.2×	9.0	35 - 38
12.0	特等	55 - 60	12.0	特等	115 - 125	2 <sup>m</sup> 1.5×	10.5	30 - 35
"	上小	70 - 80	"	上小	180 - 200	2 <sup>m</sup> 0.9×	24.0	75 - 80
"	無節	80 - 90	"	無節	220 - 250	2 <sup>m</sup> 1.5×	24.0	40 - 45
長 サ 4m			長 サ 4m			造 作 材		
6.0	一等	40 - 45	6.0	一等	65 - 70	杉 4 <sup>m</sup> 3.0×	3.0	無節 (本) 5 - 9
9.0	上一	30 - 35	9.0	上一	45 - 50	杉 4 <sup>m</sup> 4.0×	4.5	無節 (本) 15 - 23
"	一等	40 - 42	"	一等	58 - 60	杉 4 <sup>m</sup> 4.5×	10.5	無節 200 - 250
10.5	特等	50 - 55	10.5	特等	110 - 120	桧 4 <sup>m</sup> 4.5×	10.5	上小 250 - 280
12.0	特等	50 - 55	12.0	特等	110 - 120	桧 4 <sup>m</sup> 4.5×	10.5	無節 300 - 350

## 木材 (12月上旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3m	7 - 10	10	12	-
	11 - 13	20	25	-
	14 - 16	28	57	-
	18上	25	57	18
4m	7 - 10	15	24	-
	11 - 13	15	24	-
	14 - 16	18	58	-
	18上	18	40	25
6m	14 - 16	-	87	-
	18 - 20	-	65	-

## 乾しいたけ (11月中旬)

名柄別	価格 kg当り (百円)	
	安 値	高 値
香 信 大 葉	39	74
" 中 葉	31	70
" 小 葉	15	61
バ レ 大 葉	31	54
" 中 葉	24	59
ス ラ イ ス	13	31
香 茹	31	69
上 冬 茹	38	63
並 "	28	57
並 並 "	21	57
小 玉 "	13	37
格 外 品	4	42

### 編集後記

新年おめでとございます。輝かしい年を迎え、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。好評だった「まにわ森林大学」が引き続き実施されるそうです(本誌紹介)。真庭美しい森林づくりの会から会報が発行されました。木材の町にふさわしいユニークな活動がなされています。次回は、三月一日発行予定です。今年も「林声」をよろしく願います。(H)